

6)醸造用ブドウの整枝法

中央農業試験場 園芸部 果樹科

1.試験のねらい

我国のブドウ栽培では棚仕立て栽培が一般的であるが、本道における醸造用ブドウの栽培では、コスト低減等のため垣根仕立てが多く採用されている。

しかし、国内では垣根仕立てによるブドウの経済栽培はこれまでほとんどなく、整枝法も確立していない現状である。そこで本試験においては、いくつかの整枝法について、その耐雪性、耐寒性を検討し、本道のような積雪寒冷地に適合する整枝法を明らかにしようとした。

2.試験方法

1)整枝法：片側水平コルドン(図参照)など9整枝法

2)供試品種：「ツバイゲルトレーベ」、「ミュラー トルガウ」

3.試験の成果

1)耐雪性は、短幹多主枝整枝及び片側水平コルドンの各整枝力が優り、棚一本主枝整枝及び両側水平長梢(単梢)、両側水平長梢(複梢)両整枝は劣った。

2)耐寒性は、短幹多主枝整枝及び片側水平コルドン(更新)整枝が優り、棚一本主枝整枝及び長幹株整枝が劣った。

3)生産性は、「ツバイゲルトレーベ」では棚一本主枝整枝が劣り、両側水平長梢(単梢)整枝、両側水平コルドン整枝もやや劣ったが、その他の整枝では大きな差はなかった。「ミュラー トルガウ」では寒害の影響が大きく、特に棚一本主枝整枝で劣り、片側水平コルドン(密植)整枝、長幹株整枝でも劣った。

4)果実品質は、棚一本主枝整枝、両側水平長梢(単梢)整枝で糖度のやや低い年があったが、その他の整枝では明らかな差はなかった。

5)これらのことから、本道においては、片側水平コルドン整枝、片側水平コルドン(更新)整枝、短幹多主枝整枝及び両側水平長梢(複梢)整枝が適合すると考えられた。

6)管理のし易さは、両側水平長梢(複梢)整枝で優り、短幹多主枝整枝で劣った。

表1 各整枝法の特性評価法

整枝法\項目	耐雪性・耐寒性			生産性		果実品質	栽培技術		栽培労力		
	耐雪性	耐寒性	回復性	Z・g	M・T		整枝の難易	病害虫防除	剪定	枝梢管理	土壌管理
1.片側水平コルドン	○	○	△	○	△	○	○	○	○	○	○
2.両側水平コルドン	△	○	△	△	○	○	△	○	○	△	△
3.短幹多主枝	○	◎	○	○	○	○	▲	△	△	▲	▲
4.片側水平コルドン(更新)	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○
5.片側水平コルドン(密植)	○	○	△	○	△	○	○	○	○	○	○
6.両側水平長梢(単梢)	△	△	○	△	△	△	◎	○	◎	○	○
7.両側水平長梢(複梢)	△	△	○	○	○	○	◎	○	◎	○	○
8.長幹株	△	△	△	○	△	○	○	△	○	△	○
9.棚一本主枝	△	△	△	▲	▲	△	△	◎	○	○	○

1)Z・g・・・ツバイゲルトレーベ、M・T・・・ミュラー トルガウ

2)評価基準は、◎：優る、○：並～良、△：やや劣る、▲：劣る とした。

表2 冬期の最低気温、積雪深による整枝法と品種の適応表

最低気温 ＼ 整枝法＼積雪深(cm)	-15℃以上			-15℃～20℃			-20℃～25℃			-25℃以下		
	120 以上	60～ 120	60 以下	120 以上	60～ 120	60 以下	120 以上	60～ 120	60 以下	120 以上	60～ 120	60 以下
片側水平コルドン	A	A	A	A	B		B	C		C		
片側水平コルドン(更新)					A	B		B	C		C	
短幹多主枝						A		A	B		B	
両側水平長梢(複梢)			A			B			C			

1)品種A：耐寒性のやや低い品種(ミュラー トルガウ 並)、B・Cを含む。

B：耐寒性の中程度の品種(ツバイゲルトレーベ 並)、Cを含む。

C：耐寒性のやや高い品種(セイベル5279及びセイベル13053 並)。

2)最低気温及び積雪深は平年値を用いるものとするが、寡雪時期の最低気温や年較差を考慮すること。

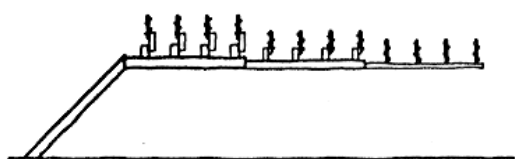


図1 片側水平コルドン

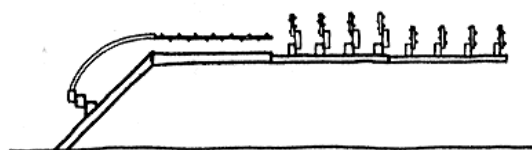


図2 片側水平コルドン(更新式)

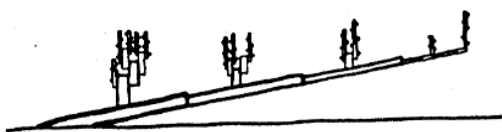


図3 短幹多主枝



図4 両側水平長梢(複梢)